

『E.T.』（イーティー、E.T. The Extra-Terrestrial）は、1982 年公開のアメリカの SF 映画。ならびに、同作品に登場する、架空の地球外生命体の名称である。

ストーリー

アメリカのとある杉の森に球形の宇宙船が着陸し、中から小さな宇宙人が数人出てきた。彼らの目的は地球の植物を観察し、サンプルを採集する事だった。その内の 1 人は宇宙船から遠く離れ、崖の上から光の海を見て驚く。それは郊外の住宅地の灯だった。その時、宇宙船の着陸を察知した政府機関の人間達が車で近づいてきた。宇宙船は危険を察知して離陸するが、遠くにいた宇宙人 1 人は地上にとり残されてしまう。取り残された宇宙人は叫び、近づいてくる人間から逃げ出した。その頃、住宅地のある家では、少年達がテーブルトーク RPG をしていた。10 歳のエリオットは小さいという理由から、兄マイケルらの仲間から馬鹿にされて TRPG に混ぜてもらえず、嫌気がさしていた。彼らが注文したピザの出前を受け取りに外へ出たエリオットは物置小屋で音がしたことに気付いて怖くなり、みんなを呼びよせた。しかし中には誰もおらず、見慣れない足跡が残されていただけであった。その日の深夜、エリオットは隣のトウモロコシ畑に物音の正体を探りに行き、宇宙人を目撃する。翌日、家族と夕食を食べながら、エリオットは宇宙人を見たことを話す誰も信じない。「パパなら…」というエリオットの言葉に母のメアリーは動揺する。メアリーと折り合いが悪いパパは、愛人とメキシコに行っていたからだ。夜もふけ、エリオットがポーチで見張っていると、ついに宇宙人が彼の前に姿を現わす。エリオットは「ハーシー」のチョコレートで、空腹だった宇宙人を部屋に導きクローゼットに隠した。翌日、エリオットは仮病をつかって学校を休み、宇宙人とのコミュニケーションを試みる。そして帰宅した兄マイケルと妹ガーティに宇宙人を紹介する。宇宙人は念力でボールを宙に浮上させて、太陽系を遠く離れた星からやって来たことを説明した。次の朝、エリオットはマイケルの友達から「怪物がいたか」と尋ねられ、宇宙人だという答えを信じてはもらえないものの、「ではエキストラ・テレストリアルだな」と聞かされる。こうしてその宇宙人は以後、「エキストラ・テレストリアル」を略して「E.T.」と呼ばれることになる。

エリオットと E.T.との間には心が通い合うようになり、留守宅の E.T.が冷蔵庫からビールを取り出して飲むと、学校で授業を受けているエリオットも酔っぱらう。さらに E.T.がテレビで「静かなる男」を見て、ジョン・ウェインとモーリン・オハラのカスシーンに見とれていると、学校ではエリオットが好意を抱いていた女の子にキスをする。E.T.は「セサミストリート」を見たり、ガーティに教えてもらいながら英語を覚える。また新聞に載っていた SF コミック『バック・ロジャース』の 1 シーンを見たことで、家に電話したいと言い出す。E.T.はエリオットとマイケルが集めてきた様々なガラクタを使って通信機を作り上げる。ハロウィンの日、エリオットとマイケルは E.T.に白い布をかぶせてガーティに見せかけ、メアリーの目を欺いて外出させる。エリオットは E.T.を郊外の森に連れ出し、E.T.は通信機で故郷の星に連絡をとる。道に迷った E.T.は、川に落ち流されてしまい翌朝瀕死の状態となり、マイケルが彼を家に運ぶが、エリオットも体調を崩してしまった。E.T.を初めて見て驚くメアリー。突然、宇宙服を着た政府機関の科学者達が家に押しかけてきた。科学者達はエリオットの家に E.T.がかくまわれていることを察知し、監視していたのだ。NASA の科学者である鍵の男は、エリオットに「私も 10 歳の時から E.T.を待っていた」と語りかけた。E.T.は器官が停止し、科学者たちから死亡したと判断されエリオットが悲しみに暮れていると、突然 E.T.の胸が赤くなり蘇生する。エリオットはマイケルとガーティ、マイケルの友人であるグレッグ、スティーブ、タイラーの協力を得て、科学者達から E.T.を助け出し、森へ向かう。E.T.が連絡を取った場所に到着すると宇宙船が現れ着陸する。エリオット達と E.T.は最後の別れをし、E.T.は宇宙船に乗り込む。離陸した宇宙船が見えなくなった後、空に美しい虹がかかるのであった。